

「ステイホーム」の夏、本を楽しんでみてはどうだろう。どうにもならぬ困難に直面した時、その読書体験が行く道を照らし、生きる希望を与えてくれる。

(7/18 毎日新聞コラム「余禄」より)

1学期 図書館いろいろデータ

■1学期の総貸出冊数……3, 382冊

学年別の貸し出し冊数 (7月19日現在)



葉くん 夏休みバージョン

イラスト: 篠原佑芽さん

1年	2年	3年	ひとりあたり平均
663冊 (14.1冊)	1726冊 (29.8冊)	993冊 (15.8冊)	20.1冊 あなたは何冊?

■特に貸し出しが多かった本■

- 「いじめ! 4歳の message」 林 慧樹/著 (小学館)
- 「きみの町で」 重松 清/著 (朝日出版社)
- 「もしも明日があるのなら、君に好きだと伝えたかった」 miNato/著 (スタート出版)
- 「推し、燃ゆ」 宇佐見りん/著 (河出書房新社)
- 「かがみの孤城」 辻村 深月/著 (ポプラ社)
- 「強制終了、いつか再起動」 吉野万理子/著 (講談社)
- 「ひとりの夜にあなたと話したい100のこと」 カシワイ/著 (講談社)
- 「夜に駆ける」 星野 舞夜/著 (双葉社)
- 「52ヘルツのクジラたち」 町田その子/著 (中央公論新社)
- 「シャーロック・ホームズの挑戦」 コナン・ドイル/著 (学研教育出版)
- 「お探し物は図書室まで」 青山美智子/著 (ポプラ社)
- 「ウイズ・ユー」 濱野 京子/著 (くもん出版)

★この中にあなたの「推し」はありますか? 「1冊も知らない..(T T;)」という人はぜひ図書館に!

夏休み中の図書館開館日を利用しましょう。

- 7月28日(水) ※午後のみ
- 8月 2日(月) ○8月 3日(火) } 午前:8時40分~12時
- 8月10日(火) ○8月11日(水) } 午後:1時~4時30分
- 8月23日(月) ※午前のみ

※本を借りたり返したりできます。

※涼しい環境の中で読書をしたり、学習に利用できます。

※マスクの着用、入館時の手指消毒は必ず行いましょう。

※水分補給以外の飲食は禁止します。

★★図書館・河野のひとりごと★★

夏休みの読書の宿題は「2冊」です。読書記録カードに記入をしてください。

この数に「え、少ない!」「えー多い!」という正反対の声が聞こえてきますが…。

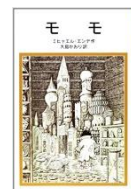
ちなみに私は課題より1冊多く、以下の3冊を今から楽しみにしています。



○2AのKさんから借りた本。東野圭吾作品はテンポがよく、人間の内面がよく描かれています。それだけに読みだすと止まらなもので、今はまだページを開いていません。夏休みにじっくりと…。ちなみに3BのKくんも購入したというので休み後に感想を共有できたら楽しいだろうなと思っています。



○昨年の休校中に読んだ本。終盤はつらすぎて悲しくてページがめくれませんでした。現在、BSで放映中。設定が原作と少し違いますが、本を読んで想像していた色や音や景色がほぼ同じで、毎回、涙がとまりません。この夏、再読したい1冊です。



○最近、校長先生や給食の一ノ宮先生と「モモ」について話をする機会があり、思い出して我が家の物置から引っ張り出してきました。初めて読んだのは高校生の時。美術の先生に勧められました。2回目は長男との親子読書。10年ほど経つでしょうか。3回目の今回は何を思うのか。本は読み返すことで印象が全くかわることがあります。それも読書の楽しみの1つです。

読書感想文に頭を悩ませている人って多いですね（泣）

「本選びが苦手！」「そもそも読書が嫌い！」「文章を書くのが苦手」…



理由はさまざまですが、それらが少しでも解消されることを願いながら、簡単なアドバイスを授けます。

まずは「やらされている感」は捨てよう！

何でもそうですが、イヤイヤながらやったことはそれなりの結果しかついてきません。どうせなら、「読書感想文は自分へのミッションだ！」と思い込み、果敢にのぞみましょう。「イヤだなあ」「めんどくさい」などのNGワードを最後まで言わないようにしましょう

① 本選びに迷ったらこうしてみよう！

自分のことをよく知っている家族や先生にすすめてもらおう。主人公が自分と同じ環境にある本をさがしてみよう。（例えば自分が所属する部活に関わる内容・自分と同じ名前の主人公・かつて旅行した場所が舞台…など）本が好きな友だちからの紹介もおすすめ！もちろん図書館でも相談にのりますよ♪

② その本との出会いを大切にしよう！

「この本で書きたいな」と思ったら、その本は買って自分の本にするのがベスト！「借り物の本」と「自分の本」とでは、その本への「思い」が違ってきます。「その本とどういう出会い方をしたのか」「その本のどこが好きか」「どんなときに読みたくなるか」「それを読むとどんな気持ちになるか」…こういうことを書くだけでも立派な感想文ができちゃいます。

③ 話せば書ける！

家族でもいいし、友だちでもいい。普段の調子で、「こんなことを書いてある本で、自分が好きなのはどの場面で…」と思いつくことを話してみる。話していると本の中身のことをいろいろ思い出してくる。話してみたことで、「ああ、自分はこんなふうに感じているのか」ということに改めて気づきます。それに話していると相手が質問してくる。「そのあとどうなるの？」とか…。そうすると「そうか、人はそういうところが知りたいんだ、自分の説明はそこがたりなかったのかな。」ということもわかる。これが感想文を書くときの大きなヒントになります。人に話すことで、自分の頭の中も整理され、ただ読んだだけの時よりも自分の記憶にしっかり刻まれていく。自分の心にある思いや感情をうまく相手に伝えることができるとうすきりするし、人に楽しく話せたらまちがいなく感想文も書けます。また普段から本のことを話せる、「本友（ほんとも）」をつくるといいですね♪

④ 「グッとくる、いいことば」をさがす

本の中から、自分の心にグッときた言葉を拾い出そう。それをメモに書き出す。できたら3つくらい。そしてその言葉や文章がなぜ、「グッときた」のかを書いていく。そのときに、その3つのどこかに、自分の体験を交えて書く。

自分自身の経験と重ね合わせたエピソードにはあなたの個性がでます。この本を読み、「読む前の自分」と「読んだ後の自分」にどのような変化があったのか書けると、最高の読書感想文になります。

⑤ 意識したいこと、いくつか…

「文字はていねいに」 「できたら2000字めいっぱい書く」

「原稿用紙の使い方を守る」

「敬体より常体で ▲～です ～ます ○～だ ～である」

「ネットなどからのいわゆるパクリはダメ。バレます」

